



日本創造学会 Japan Creativity Society

JCS NEWS LETTER



第45回日本創造学会研究大会を終えて

日本創造学会第45回研究大会は、目的として「創造性、およびリスクリングの研究と知見の獲得」を標榜し、日時：9月30日13：00～16：30、10月1日9：30～16：00、参加形式：ハイブリッド型、会場：産業能率大学2号館にて開催され、無事閉幕した。

初日の基調講演では北大川村秀憲教授による『人工知能の未来ChatGPTを超えて』が強いインパクトを残した。特にChatGPTだけでなく生成AIの存在は、ネガティブな要素もあるが、ポジティブに捉えればあらゆる人々への好影響がこれから始まり、想像を超えた未来が待っているということ。何たってChatGPT4を活用すれば米国司法試験上位10%に入れる知能を有しているという事実……。記憶力の低下を年のせいにして、AIを煙たがっている時代に取り残されると痛感した。

基調講演（オンライン）：「人工知能の未来ChatGPTを超えて」 北海道大学大学院教授 川村秀憲氏



川村先生の基調講演は以下のURLより視聴可能です。
<https://youtu.be/Mmxjir7Wojc>

次に、パネルディスカッション「創造性とリスクリング」では、産総研 本村陽一氏、九大 松前あかね氏、アイデアプラント代表 石井力重氏のトークがさく裂した。それぞれの専門領域から国、社会、組織、コミュニティ、大学カリキュラム、個人に至るまで、生成AIとの関係性は新たな局面にあり、老若男女問わず、変化に対応していくことが、イノベーションや幸福への近道なのだと考えさせられた。やはりエッジを走る研究者、コンサルタントにはいつもインスパイアされる。学会として、新たな扉を開けそうなディスカッションであった。司会進行を務めた藤原先生や鋭い質問をくれたオーディエンスに改めて感謝したい。

パネルディスカッション

「創造性とリスクリング」

産業技術総合研究所 首席研究員 本村陽一氏
九州大学大学院 准教授 松前あかね氏
アイデアプラント代表 石井力重氏



10月1日9:30～研究発表（ハイブリッド型）は、産能2号館3教室とオンライン別室にて45本の研究発表が展開された。ハイブリッド独特の難しさ（教室環境、デバイスツールとの相性、人的ポカミス等々）があったが、現場、現場で臨機応変に対応してくれたた司会進行の方々のおかげで、45本すべて発表することができた。中でもオンラインブースでは最終の石井先生の発表が大盛況になり、時間が過ぎても終わる気配がなかったため、委員長権限で強制終了とした。（笑）

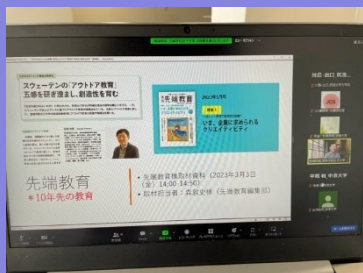
最後に45回研究大会を無事に閉幕できたことに関し、運営支援をしてくれた大会副委員長の藤原由美先生、三浦元喜先生、そして事務局の比嘉さん、助っ人の産能大富沢日出夫先生に感謝申し上げたい。
（実行委員長：豊田貞光）

2日目ハイブリッドでの研究発表

会場発表



オンライン発表



2023年度総会について

2023年度の役員会/会員総会は、研究大会1日目（9/30）がオンライン開催だったため、参集による開催は行わず、メール送信での書面による総会を実施、賛成多数で前年度会計報告、事業報告、来年度事業活動予定、予算案、等が承認されました。（報告ページ→5P）



オンラインで報告をする豊田理事長

学会賞授賞者

本年度学会賞表彰式は大会1日目がオンライン開催のため、オンラインで豊田理事長より表彰者を発表、表彰状と記念品は郵送で送られました。

【日本創造学会論文賞Vol.26】

論文タイトル：地方創生に向けたイノベーションプロセスの提案と適用
森田 純恵（秋田県立大学）、中村 一稀、菅原 溪、紺野 登

【第44回研究大会発表賞】

森田 純恵（秋田県立大学）
西浦和樹（宮城学院女子大学学）

【第44回研究大会発表学生賞】

東海林慶祐（九州大学大学院）
七條花恋（九州大学大学院）
井原 颯太（久留米大学）

【第44回研究大会デジポス発表賞】

宮外真理子（有限会社フォント）
馬場康之（㈱毎日放送）

【著作賞】

『問いが鼓動するまで。』 池田文人（北海道大学高等教育推進機構）

●●●●論文賞受賞者の声●●●●



論文誌Vol.26採録 論文賞
地方創生に向けたイノベーションプロセスの提案と適用
オランダ農業ビジネス国にみる農業と情報工学の融合からの質的研究

著者：森田 純恵（秋田県立大学）、中村 一稀、菅原 溪、紺野 登

このたびは名誉ある「論文賞」を頂き、大変光栄に思います。本研究の指導を頂きました紺野登先生、また丁寧にご指導頂いた論文査読者や編集者の方々に深く御礼申し上げます。

本研究は、農業ビジネス国であるオランダをテーマに日本の異分野融合に取り組んだものですが、そのきっかけは、私が急遽2022年4月に秋田県へと異動、スマート農業プロジェクトの推進をすることになったことです。自身の研究テーマは、「世界のダイキン」を徹底研究することでしたが、その両立が困難なため、テーマを「農業ビジネス国オランダ」へと変更することを決意します。

知識創造の観点でオランダ研究を進めた結果、日本の「スマート農業」という異分野融合の課題と日本の製造業のソフトウェア化への組織論的課題の類似性に気づき、オランダの歴史的な知識共有文化に共感、夢中になりました。8月には、オランダの施設園芸の制御装置メーカーのインタビューが実現します。並行して、秋田県の地方創生に対してオランダの成功要因を取り込むことを考え、本論文では、目的志向の体系的なイノベーションプロセスを提案、その適用・検証を質的研究としてまとめました。

いまの私の目標は、異分野融合による産業イノベーションの為の方法論の研究として日本の製造業、日本の地方創生に不可欠な農業ビジネスの在り方を博士論文としてまとめあげることです。学術的貢献ができましたら幸いに存じます。 (2023.11.8 森田純恵)

永井由佳里会長が日本学術会議会員に就任

日本創造学会で理事、論文誌編集委員長、理事長を歴任され、現会長である永井由佳里先生（北陸先端科学技術大学院大学理事・副学長）が、10月1日付で日本学術会議第26期会員に任命されました。

日本学術会議は、科学が文化国家の基礎であるという確信の下、行政、産業及び国民生活に科学を反映浸透させ、世界の学界と提携して学術の進歩に寄与することを目的として設立された、日本のアカデミーであり、内閣総理大臣の所轄の下、独立して職務を行う機関です。日本の人文・社会科学、生命科学、理学・工学の全分野の約87万人の科学者を代表する機関であり、210人の会員と約2000人の連携会員によって職務が担われます。

永井先生は、第三部の会員として、今後6年間にわたり日本の科学の発展に貢献してゆかれます。



日本創造学会会員の皆様へ



日本創造学会の活動は人類と地球への未来に直結するものであり、創造性とイノベーションという日本学術会議の目的と重なるものです。これまで学術会議の連携会員として第一部（哲学）と第三部（情報）を跨いだ活動を行ってまいりました。

この10月からは、本学会の長い歴史と現在の充実したネットワークを基盤に、学術会議の会員としてより重い任を果たせるよう努力致します。あわせて、本学会の更なる発展にも寄与できることを願っております。

The 18th International
Conference
on Knowledge, Information
and Creativity Support
Systems

第18回KICCS2023が北九州で
開催されました



三重大大学主催、日本創造学会も共催の国際会議、第18回KICCS2023が2023年9月20日－22日、北九州市小倉の北九州イノベーションセンターで開催されました。

参加人数50名、参加国は5ヶ国で日本創造学会会員も多数参加、発表を行いました。

正会員の北九州市立大学准教授の古川洋章氏（JAIST由井蘭隆也教授研究室）と学生会員の村井友貴君が一般と学生のOutstanding Paper Awardを、正会員の千葉工業大学の三浦元喜教授の弟子の学生会員の金原雄大君がBest Student Paper Awardを受賞し、村井氏は國藤賞も受賞されました。

二日目は風車、太陽光パネル、バイオマスで発電しているエコタウンのテクニカルツアーでした。

来年度の第19回KICCS2024は久々に海外で行いますので、ふるって会員、学生会員の皆様はご発表下さい。二回目のインドネシア開催ですが、開催場所が確定次第、皆様方にご案内します。時期は例年どおり11月か10月に戻す予定です。

日本創造学会 評議員長、研究倫理委員長
JAIST名誉教授、非常勤講師
國藤進



総 会 報 告

研究大会1日目がオンライン開催となったため、会員総会は書面（メール）による総会となりました。2023年8月に会員の皆様の登録メールアドレスに総会資料を送付、記載内容（2022年決算・事業報告、2023年度事業活動状況、2024年活動予定、2024年予算案等の項目）をご確認いただき、メールへの返信にて内容の承認について確認致しました。理事会より提案・報告された内容は、会員の賛成多数で承認・可決しました。

2022年度決算報告

収入

科目	予算額	実績額	備考
前年度繰越金	¥4,769,372	¥5,418,384	
会費収入	¥1,722,500	¥2,055,000	正会員支払者191名 1,823,500 学生会員支払者37名 174,500 入会金33名 57,000 ※新入会者会費は入会時期により変動
論文掲載料	¥260,000	¥350,000	掲載料 正会員200,000、学生会員150,000
研究大会収入 (参加費・掲載料)		¥531,000	
合計	¥6,751,872	¥8,354,384	

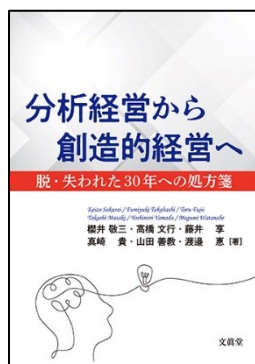
支出

科目	予算額	実績額	備考
大会費	¥500,000	¥348,460	※予算からの支出なし
会議費	¥90,000	¥64,125	
研究会補助費	¥900,000	¥282,920	
交通費	¥150,000	¥0	※オンライン会議のため
発送費	¥80,000	¥28,748	
学会誌	¥101,000	¥120,165	
ニューズレター・メディア	¥250,000	¥249,800	
事務局費	¥350,000	¥348,000	
会員情報管理費	¥200,000	¥192,000	
HP管理費	¥111,000	¥101,165	
事務所設備費	¥120,000	¥120,000	
学会賞準備費	¥30,000	¥29,950	
電話使用料	¥35,000	¥28,912	
オンライン環境整備費	¥500,000	¥205,883	
予備費	¥3,303,372	¥136,090	
支出合計	¥6,720,372	¥2,256,218	
	収入額	支出額	繰越額
収支	¥8,354,384	¥2,256,218	¥6,098,166

2024年度予算

収入		支出	
2021年度繰越分 (監査未終了概算)	¥4,769,372	大会費	¥500,000
会費収入 (会員数からの概算)		会議費	¥90,000
内訳		研究会補助費 (クリサロ/フィールドワーク新企画開催)	¥900,000
正会員200人×10000円×75%	¥1,500,000	交通費	¥150,000
学生会員67人×5000円×60%	¥201,000	発送費	¥80,000
		学会誌	¥101,000
		NL・メディア作成費	¥250,000
		事務局費	¥350,000
新入会者入会金約20名分 (2000×15、1000×10)	¥40,000	名簿・デジタルデータ類管理費 (規約、名簿、会費会計簿、ITアドレス等管理)	¥200,000
		ホームページ管理費	¥111,000
論文掲載料	¥200,000	事務所設備費 (光熱費、OA機器保守費、事務所使用費等)	¥120,000
雑収入	¥10,000	学会賞準備費	¥30,000
		電話使用料	¥35,000
		オンライン環境整備費	¥500,000
		予備費	¥3,303,372
	¥6,720,372		¥6,720,372

会員の書籍紹介



分析経営から創造的経営へ

脱・失われた30年への処方箋

櫻井敬三・高橋文行・藤井享・真崎貴・山田善教・渡邊恵 著
文眞堂 3,200円

日本の停滞30年の付けは日本を滅ぼしかねないとの認識の基、価値創造型企業支援研究所(所長 櫻井敬三)に『ネクストマネジメント展望研究会』を2016年8月発足させ、2023年3月まで50回の会合を持って「今の日本を救える方策は何か」を導き出したのである。その立役者は『日本の中小製造企業の社長さん』が適任者と判断した。

その理由は日本の製造業、しかも中小企業は日本のGDPを支え、大企業より利益率が高い企業が30%近くあり、人材を大切に(正社員比率74%)、技術向上に努力し(研究開発実施率48%)、その点では最も日本をイノベーションで変革できると考えた。中小製造企業には『基本理念を維持しながらイノベーションを連続的に生み出し続ける仕組みづくりが必要』とし、その出発点として①必要なモノを必要なだけ作る(受注生産型)、②社会に目配りして作る(社会課題を事業化)、③真のパートナーシップで作る(脱下請)、④真の顧客価値を実現するモノを作る(高付加価値化)ことが必要と説く。その実践的活動を個別の章で説明(ビジョンづくり、社長方針ビジュアル化、課題解決を統合思考で、高付加価値の創出、DX化や社会優先)する。

第45回研究大会発表賞

第45回研究大会発表賞は、会員による投票と審議の結果、以下の方々が受賞されました。受賞者の研究内容は来年度のクリエイティブサロンで発表していただく予定です。表彰式は2024年の総会時に行われます。

研究大会発表賞 藤井賢二 所属：慶應義塾大学 グローバルリサーチインスティテュート

「デザイン思考を取り入れた図画工作科の新手法 ケニアの貧困地区の子供達への適応」

藤原由美 所属：産業能率大学

「グローバル教育による多様性適応力の成長 ー大学における英語で学ぶホスピタリティ教育を対象としてー」

デジタルポスター発表賞 安松健 所属：大阪教育大学/㈱エクサウィザーズ

「ChatGPT でKJ法はできるのか？ 久留米餅かすりの図解データとの比較分析」



■新入会員紹介■

入会者（入会順）

氏名	会員種	所属	住所	専門分野
金原雄大	学生会員	千葉工業大学大学院	東京都	情報通信システム 発想支援システム
川島一城	学生会員	筑波大学大学院	茨城県	社会科教育・デザイン思考 創造性教育
大塚隼輝	正会員	株式会社有田まちづくり公社	佐賀県	KJ法・人工知能 文化人類学
加藤昌治	正会員	UNIVERSITY of CREATIVITY (株式会社博報堂)	東京都	広報/パブリック・リレーションズ アイデア発想に関する実務

●2024年度会費納入について

日本創造学会の年度はカレンダーと同じ1月から12月です。2024年1月以降に2024年度の会費納入の書類をお送り致します。学術研究団体である創造学会は皆様の会費により運営されております。納入のご協力をお願い致します。



事務局メッセージ

秋の研究大会が終了し、早いものでもうすぐ師走。今年は6月から暑い日が続き、11月中にも夏日（25℃以上）になるなど、体感的には1年の半分が夏だったような年でした。どのタイミングで衣替えをしようか悩んだ方も多かったのではないのでしょうか。寒暖差が激しいこの頃ですが、どうかご体調など崩さぬよう、お気をつけてお過ごしください。

（事務局：比嘉）

日本創造学会 ニュースレター
2023年11月発行（No.4）
日本創造学会事務局
発行人：豊田貞光
編集担当：比嘉由佳里
〒272-0015 千葉県市川市平田
1-10-2
Tel 080-3465-6152
e-mail：jcs-info@japancreativity.jp